

区議会レポート

97号

2023年9月25日発行



葛飾区議会議員 かわごえ誠一

本号の内容

表面：第3回定例会報告など
裏面：区民連合行政視察報告

発行：

かつしか区民連合

【区議会控室】 〒124-0012

東京都葛飾区立石 5-13-1

電話 03-3695-1111 (代)

f a x 03-3697-0137

令和5年葛飾区議会第3回定例会開会

令和5年度第3次補正予算案 76億7,793万円

◆9月13日に令和5年第三回定例会が10月12日までの30日間の会期で開会しました。◆今回の定例会では第三次一般会計補正予算76億7,793万円が上程されました。◆補正予算には、対話方生成AI導入、葛飾柴又文化的景観誘客イベント経費、(仮称)全国みどりと花のフェアかつしかにかかる基本計画策定経費、待機児童対策として私立学童保育クラブ整備費用などが盛り込まれました。

令和4年度決算審査特別委員会設置

◆今定例会では令和4年度決算審査特別委員会が設置されました。9月29日(金)から費目別の四つの分科会に分れて審査が行われます。



一般質問に登壇

かわごえ、一般質問に登壇

◆9月13日(水)区議会本会議の初日に、一般質問に登壇しました。詳細は後日ご報告します。質問の様子は区議会ホームページアーカイブ(右QRコード)からご覧下さい。



グリーンスローモビリティ(グリスロ)実証運行へ

◆交通不便地域解消に向け、地域主体による地域交通システム「グリーンスローモビリティ」の車両が納入されました。10月4日から東立石地域で実証運行が開始される予定です。



グリスロ車両納入

葛飾区立児童相談所 10月1日開設へ

◆9月16日(土)に児童相談所の開設セレモニーと内覧会が開かれました。10月1日の開所を目前に地域や子育て支援関係者などが施設の見学をしました。◆合わせて9月25日の本会議で「子どもの権利条例」が議決される予定です。



児童相談所内覧会にて

区内各駅ホームドア設置に向けて前進

◆JR亀有駅、JR金町駅において今年度中のホームドアの運用開始が公表されていますが、京成線においても高架化に伴い設置が予定されている京成立石駅に続き、高砂駅のホームドア設置について来年度から準備着手の予定と公表されました。さらに2035年度までに青砥駅、お花茶屋駅、堀切菖蒲園駅についても整備をするとされました。なお、国土交通省の鉄道駅バリアフリー料金制度を導入しての整備とのことで、2024年度から乗車料金について1乗車あたり10円の加算になるとのことです。

「中川かわまちづくり」計画登録！

◆高砂橋から上流の中川の護岸について、利活用をするため、国土交通省のかわまちづくり支援制度に登録されました。国土交通省と連携した散策路や船着場などのハード整備とともに、官民連携による賑わい創出など、今後中川の河川環境の活用に向けての取組みが始まります。

かわごえ誠一連絡先

〒124-0012 葛飾区立石8-47-18

携帯電話 090-2932-7315

e-mail : info@kawagoeseiichi.com

かわごえ誠一プロフィール

●1963年3月川崎市生まれ ●立石在住34年 ●防災士 ●子育てネットワーク・学童保育・PTAなどの活動に取組む ●都議会議員秘書を経て2013年区議選で初当選・2021年三期目当選 ●議会議員：建設環境委員会委員長・区民サービス向上対策特別委員会・議会運営委員会など

かわごえ誠一オフィシャルサイト

www.kawagoeseiichi.com →

日々の活動はFacebook かわごえ誠一をご覧ください。



かつしか区民連合行政視察報告

◆去る8月22日から24日にかけて、かつしか区民連合として行政視察を行いました。◆区内でも子ども未来プラザの建設、若者支援、グリスロ、中川かわまちづくりなどが進められていますが、先進的に取り組む自治体の実態を拝見することで、さらに良い施策を目指すことを目的としています。

■長岡市・施設と公園が一体となった子育ての駅「てくてく」



「てくてく」の玄関前にて

◆新潟県長岡市では子どもの成長に合わせて一貫した支援体制を構築するために教育委員会内に子育て支援関連の部署を統合していました。◆これにより幼児期から学齢期への接続、さらに0歳から中学校卒業までの切れ目のない一元

的な支援体制が構築されてきたとのことです。◆その中で、子育て中の保護者から「雪の日でも子どもを遊ばせることができる子育て支援施設が欲しい」との要望があり、「保育士のいる屋根付き公園」として子育ての駅「てくてく」が

開設され、現在は4ヶ所の子育ての駅が運営されています。◆「てくてく」は都市公園内に設置するために、公園内に設置



「てくてく」の外観



施設内から公園を望む

可能な休養施設・運動施設・交流施設として開設されました。◆設計には大学の研究室が関わり、景観への配慮や、公園との連続性など公園内の立地を生かしたデザインとなっていました。◆外に面する壁面をガラス張りの開口

部にすることで、公園との一体化や開放感が生じ、空間としての魅力が生まれていました。◆また、公園内も散策や自然体験などができる仕掛けを取り入れており、大きな開口部から外からも施設内部の様子が見通せることで、連続性が感じられる作りになっていました。◆施設には保育士など職員が常駐し、一時保育も実施され、子育て支援拠点施設としての機能を担っていました。◆視察当日も乳幼児連れの親子の姿や、幼稚園・保育園帰りに立ち寄る親子の姿が見られましたが、職員と気軽に話ができる関係が作られている様子が見られました。◆葛飾区でも未来プラザの設置が進められていますが、子育て支援拠点施設のコンセプトの必要性とともにハードとソフトを融合させるデザインの重要性を感じました。

■三条市・子ども・若者サポートシステムでの切れ目の無い支援

◆新潟県三条市は子育て支援や教育に関する窓口が分散されて分かりづらい状況を改善するため、教育委員会内に子育て支援課を統合し、ワンストップの窓口機能を実現していました。◆その中で子どもの育ちの段階に応じたきめ細やかな支援を継続的に行う機関として「子どもの育ちサポートセンター」が設置されました。◆妊娠期から乳幼児、学齢期、青年期、就労まで切れ目なく総合的に必要な支援を

行うため、市が情報を一元化し、関係機関が連携するための子ども・若者サポートシステムが構築されました。◆これにより、虐待、いじめ、不登校、発達障害、引きこもりなどの課題に対し、関係機関が連携した支援が行われているとのこと。◆その中の「三条っ子発達応援事業」は、発達障害の早期発見と早期支援、幼保小中の接続、関係機関の連携体制などが構築されていました。◆発達障害への支援として行われる年中児発達参観は4歳児に対し、保育園などで保護者と子ども発達応援チームが共に確認し、支援方針の共有や、継続的な支援へ結びつけられ、支援の入口として有効な取組みと感じました。



三条市役所前にて

■三条市・公共交通再編とデマンド交通の導入

◆新潟県三条市は公共交通見直しの中で高齢化や車社会への流れなどの現状分析を進めて来ました。◆バス利用者の減少による路線削減の一方、高校生の通学に対応するためのライナーバスの運行や、市街地から離れた地域に特化したコミュニティバスを導入してきました。◆さらに一般タクシー事業者と連携し、デマンド交通の導入を進めてきました。◆タクシー事業者との連携は、タクシーの乗客が少ない時間帯を活用できることもあり、行政負担の削減が見込めるとのことでした。◆今後、利便性の向上や事業の効率化を進めるため、AIオンデマンド交通システムの導入が検討されています。◆三条市地域公共交通協議会がこれらの計画の作成や検証を担い、事業者とサービスの提供に結びつけていました。◆交通不便地域を解消するために、総合的な計画と多様な関係者による組織のあり方の重要性を確認しました。

■新潟市「にいがた2km」での川を活かしたまちづくり

◆新潟県新潟市はJR新潟駅から万代橋を挟み、古町地区までの約2キロメートルを「にいがた2km」と称し、総合的なまちづくりを進められていました。◆新潟駅前周辺整備のハードと共に、万代橋周辺の信濃川での仮設店舗



信濃川河川敷のアウトドアラウンジ夜景

による飲食店の出店、レンタサイクルの導入、古町地区の歴史文化的資源の活用・発信、また美術館など周辺資源の活用などが総合的に取組まれていました。◆それらを「にいがた2km」と銘打つことで、コンセプトが明確化され、まちづくりの一体感に結びつく等、情報発信にインパクトを感じられました。◆特に、河川敷を活用した「ミズペリング



にいがた2km レンタサイクル

水辺アウトドアラウンジ」では夜半にかけて飲食店舗がオープンし、屋外でくつろぐ市民の姿が見られました。◆新潟市街の中心部といえる場所で自然体験をしながら憩える場を作ることが「街の魅力」となっていると感じました。◆コンセプトを明確にし、分かりやすい情報発信をすること、さらに水辺などの魅力ある場所を作ることなど今後葛飾でも進む中川かわまちづくりへ、どのように活かせるか考えたいと思います。